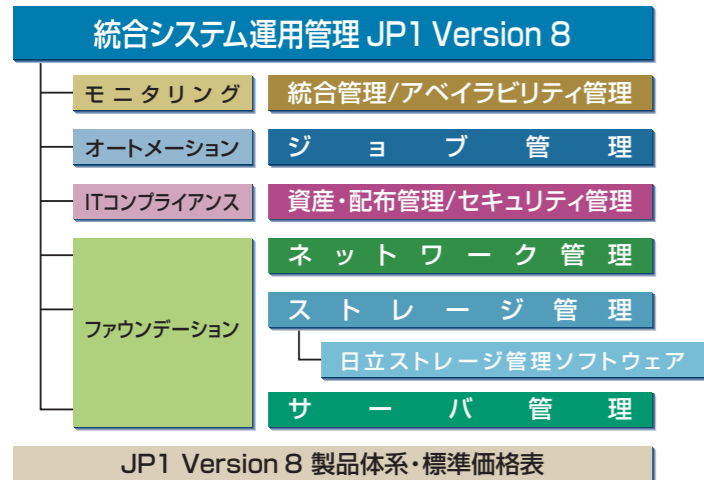


■JP1 Version 8のカタログ一覧

詳細は各製品のカタログをご参照ください。



統合システム運用管理  
JP1 Version 8

V8.5

HITACHI  
Inspire the Next

- JP1/Integrated Management - Central Information Master、およびJP1/Integrated Management - Rule Operationは、経済産業省が2003年度から3年間実施した「ビジネスクリッドコンピューティングプロジェクト」の技術開発の成果を含みます。
- JP1/秘文Advanced Edition Watermark Printには、日立INSソフトウェア株式会社が開発した「電子透かしプリント/e - 紙紋」の技術が組み込まれています。

• AIXは、米国における米国International Business Machines Corp.の登録商標です。• BEA WebLogic Serverは、BEA Systems, Inc.の登録商標です。• DB2は、米国における米国International Business Machines Corp.の登録商標です。• HPは、米国Hewlett-Packard Companyの会社名です。• HP-UXは、米国Hewlett-Packard Companyのオペレーティングシステムの名称です。• IBMは、米国における米国International Business Machines Corp.の登録商標です。• ITIL (IT Infrastructure Library) は、英国および欧州連合各国における英国政府OGC (Office of Government Commerce) の商標または登録商標です。• Java、およびJavaに関連するすべての商標およびロゴマークは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。• Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。• Lotus Dominoは、米国International Business Machines Corp.の登録商標です。• Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。• ORACLEは、

米国Oracle Corporationの登録商標です。• R/3は、SAP AGのドイツおよびその他の国における登録商標または商標です。• SAPは、SAP AGのドイツおよびその他の国における登録商標または商標です。• Solarisは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。• TELstaffは、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の登録商標です。• UNIXは、X/Open Company Limitedが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。• VERITASおよびVERITASロゴは、米国Symantec Corporationの登録商標です。• VERITAS NetBackupは、米国およびその他の国での米国Symantec Corporationの商品名称です。• WebSphereは、米国における米国International Business Machines Corp.の登録商標です。• Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。• 活文、PDFstaffは、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の登録商標です。• 秘文は、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の登録商標です。• その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

**ISO/IEC 15408の認証を取得**  
JP1の基盤製品であるJP1/Base 認証サーバ 08-10 (Windows版) は、ISO/IEC 15408の適合製品として認証を取得しています (EAL2+ALC\_FLR.1)。本製品が取得した情報セキュリティに係る認証は、評価に用いた評価対象 (Target of Evaluation) が所定の評価基準および評価方法に基づき評価の結果、セキュリティ保証要件に適合していることを示すものです。  
EAL2: Evaluation Assurance Level 2

JP1は、日立グループの「環境情報表示制度」に基づき環境配慮を評価し、スーパー環境適合製品として登録した製品です。本製品をご利用いただくことで、導入前に比べCO2を約50%削減できます (弊社モデルケースの場合)。詳しい環境情報は、当社のホームページで、ご覧いただけます。  
<http://www.hitachi.co.jp/environment/>

**JP1が顧客満足度調査で1位獲得**  
「日経コンピュータ2008年 第13回 顧客満足度調査 統合運用管理ツール」部門で、JP1が1位を獲得しました。信頼性、操作性、機能などの項目で高い評価を得ています。  
(日経コンピュータ2008年8月15日号 掲載)

- 画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。
- 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

製品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

- 製品情報サイト  
<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>
- インターネットでのお問い合わせは  
<http://www.hitachi.co.jp/soft/ask/>
- 電話でのお問い合わせはHMCC (日立オープンミドルウェア 問い合わせセンター) へ  
☎ 0120-55-0504 利用時間 9:00~12:00, 13:00~17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)



株式会社 日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部

CA-550V 2008.10  
Printed in Japan(H)

uVALUE with Harmonious Computing

本カタログはAdobe社Acrobatにより制作したPDFカタログです。All Rights Reserved, Copyright © 2008, Hitachi, Ltd.

# JP1 Version 8

## 内部統制の強化とグリーンIT対応で さらなる企業価値向上を支援するJP1 Version 8。

今、各企業に求められているのは、内部統制の強化とグリーンITへの対応。

これらは、企業価値を高めるといっても、

特に頭を悩ませる重要な課題といえます。

JP1 Version 8は、IT統制におけるシステムの自律運用、

そしてビジネス環境の可視化により、課題解決を支援します。

複雑化・高度化したビジネス環境でのシステム運用を自動化させ、

さらなるIT統制の範囲を拡大。しかも、ビジネスの継続性を確保するだけでなく、

省電力化など、時代のニーズに応えた環境にやさしい運用も実現。

クライアントPCの維持運用やサーバ運用を、効率的に支援します。

未来を支え、強い企業へと成長させる運用管理のために、JP1 Version 8。

### 効率的な運用

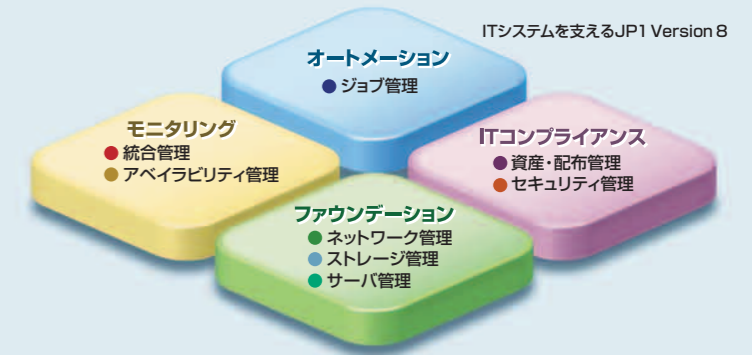
SOAベースのシステムなど、複雑化するシステム障害の予兆を未然に捉え、運用ノウハウに基づいた自律オペレーションとIT運用プロセスの統制により、システム運用の管理負担を軽減。さらに、システム全体の運用を可視化・自動化することで環境への貢献とコスト削減を支援します。SOA:Service Oriented Architecture

### 確かな信頼

環境の変化やビジネスの成長にすばやく対応し、止まらないビジネスを支援します。また、IT運用プロセスの統制による継続的な改善活動とその証明により、内部統制を強化。ビジネス環境を確かなものへすることでさらなる企業の継続的な発展を支援します。

### さらなる安心

企業が法律を遵守し、そのモラルを向上させるのに最適なビジネスモデルの実現を、システム構築・運用の両面からサポート。さらに、ネットワーク内外に潜むさまざまなセキュリティの脅威から、企業情報システムを強固に守ります。



### 製品概要

● JP1の製品体系とその概要について。

● 管理者の目的に合った形で**システム全体を一元管理**したい。

● 常に**安定したシステムの稼働**を実現したい。

● 環境の変化やビジネスの成長にすばやく対応し、**信頼性の高いシステム運用と業務の自動化**を実現したい。

● 企業の**コンプライアンス対応**の第一歩として、社内全体の情報セキュリティ対策とIT資産管理を。さらに、業務プロセスの**証跡記録**によりビジネスの透明性を証明したい。

● クライアントPCからの**情報漏えい**を強固に防ぎたい。

● マルチベンダー環境の**ネットワーク全体**をビジュアルに管理したい。

● 膨大なデータが集中する**ストレージシステム**の安定稼働を実現したい。

● ハードウェア構成管理やOS一括インストールなど、**サーバ運用**を効率良く管理したい。

JP1製品体系  
P3～P4

**モニタリング**  
統合管理  
アベイラビリティ管理  
P5～P6

**オートメーション**  
ジョブ管理  
P7～P8

**ITコンプライアンス**  
資産・配布管理  
セキュリティ管理  
P9～P10

**ファウンデーション**  
ネットワーク管理  
ストレージ管理  
サーバ管理  
P11～P12

### 代表的なソリューション

● システム構成が複雑な**仮想環境**でも、迅速な**問題解決**とシステムの**安定稼働を維持**したい。

● 事象発生時の**運用オペレーションを自動化**し、迅速な対処を実現したい。

● さまざまな脅威に対してセキュリティ対策を実施し、**クライアントPCの統制**を図りたい。

● **ITIL®プロセスへの適用**により、作業プロセスの品質向上と**内部統制の強化**を図りたい。

● ITシステムで起こり得る**不正や人的ミス**をなくし、信頼性・有効性を確保することで、**ビジネスの継続的な発展**を促したい。

VMware環境の安定稼働を支援  
P13～P14

運用ノウハウをシステム化した  
効率的なオペレーション  
P15～P16

4つの視点で実現する  
クライアントセキュリティ  
P17～P18

ITIL®サービスサポートへのJP1適用  
P19～P20

内部統制の強化による  
健全なITシステムの実現  
P21～P22

# Service Quality Management

# つねに安定したサービスクオリティでビジネスを支え続けるJP1 Version 8。

## モニタリング — システム全体の稼働状況を「見る」

サービスおよびシステムの稼働状態や障害発生の予兆を見通す。

### ■統合管理

システム全体のリソースや業務（サービス）の稼働情報を業務視点で効率良く一元管理。事象（イベント）の発生をリアルタイムに監視でき、障害発生時の原因箇所の特定からその対処までを迅速にサポートします。

### ■アベイラビリティ管理

インターネット・サービス、OS、アプリケーションなどの稼働情報を多様な側面から収集。これらを一元管理し、横断的に分析することで、問題の特定から解決、さらには将来のキャパシティプランニングまで、安定したシステム運用を実現します。



## オートメーション — 計画的に業務を「動かす」

ポリシーに基づいたシステム運用や業務の自動化によって、ミスや不正が起こらない安定した業務運用を実現。

### ■ジョブ管理

きめ細かく豊富なスケジューリング機能や予実績管理など、業務の自動化に必要な機能をさまざまなプラットフォームで提供。クラスター対応や大規模災害に備えたディザスタリカバリによる信頼性の向上、および1日数万件のジョブをこなす処理性能を実現します。



## ファウンデーション — システム基盤を「支える」

ネットワーク、ストレージ、サーバを効率良く管理し、システムインフラを力強く支える。

### ■ネットワーク管理

業界標準のSNMPを採用。IPv6やIPv4が混在するネットワーク、ルータやスイッチなど、マルチベンダーの各種ネットワーク機器をビジュアルな管理マップで一元管理できます。

SNMP: Simple Network Management Protocol  
TCO: Total Cost of Ownership

### ■ストレージ管理

SAN/NAS環境のストレージ運用、マルチプラットフォーム環境のバックアップ運用を一元管理。TCOの削減とストレージシステムの安定稼働を支援します。

### ■サーバ管理

ハードウェアの構成管理やOS一括インストールなど、サーバ運用を効率良く管理。サーバ障害時には、予備サーバへの自動切り替えにより、迅速な復旧が行えるため、システムの可用性を向上できます。



### オートメーション

●ジョブ管理

### モニタリング

●統合管理  
●アベイラビリティ管理

### ファウンデーション

●ネットワーク管理  
●ストレージ管理  
●サーバ管理

### ITコンプライアンス

●資産・配布管理  
●セキュリティ管理

## ITコンプライアンス — 大切なIT資産を「守る」

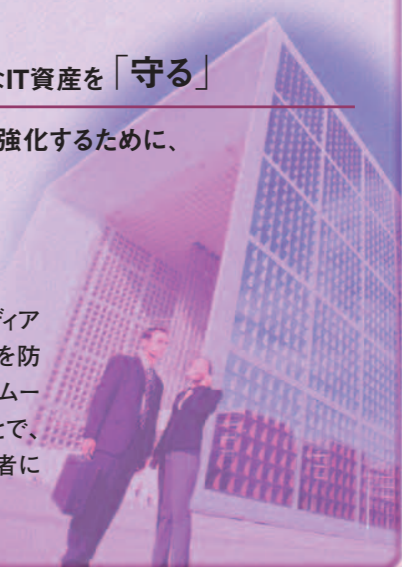
セキュリティポリシーや法令、規則に基づく内部統制を強化するために、資産情報を集中管理し、速やかな対応策を実施。

### ■資産・配布管理

ハードウェアやソフトウェアなどのIT資産を一元管理。さらに、検疫システムの構築、クライアントPCや業務サーバの操作記録（証跡記録）の取得により、ITによる内部統制の強化を支援します。

### ■セキュリティ管理

社内での情報の共有化を推進しつつ、メディア・印刷による機密情報の不正な持ち出しを防ぎます。また、モバイルPC上のデータやリムーバブルメディア内の情報を暗号化することで、万一紛失や盗難に遭った場合にも第三者による解読を防げます。



## ポイントソリューションからトータルソリューションまで。導入のしやすさと拡張性に優れています。

### システム全体の統合管理（トータルソリューション）

システム全体の稼働状況を[統合コンソール]から共通化されたオペレーション環境で一元管理できます。管理目的に沿ってITリソースを仮想化することでシステムを可視化。障害などの事象発生時に自動的に対処できるので、サービスの安定稼働を実現できます。

### 必要なところから導入（ポイントソリューション）

緊急の対応を要する[セキュリティ管理]の情報漏えい防止製品だけを導入する、というように、豊富な管理メニューから、個々の問題解決に必要な分野の製品や優先度の高い分野の製品を選択できます。「必要なところから導入し、徐々に拡張する」ことが可能なため、今必要なシステム運用に合わせて初期投資を最適化できます。

### システム規模に合わせた最適な投資

PCサーバ1台のシステムからサーバ数千台の大規模システムまで、統合的に管理できる拡張性を備えているため、システム規模に見合った投資が可能です。もちろん、既存資産を最大限に活かしながら、効率良く拡張していくことができます。

### ベストソリューションの提供

JP1を用いたシステムのプランニング・構築・運用のコンサルティングや、お問い合わせ・研修・教育サポートなど、きめ細かなベストソリューションを提供。システム運用のさまざまなニーズにお応えします。

# 管理者の目的に合った形でシステム全体を一元管理したい。さらに、常に安定したシステムの稼働を実現したい。



## ■ 統合管理

監視対象から収集した管理情報を1台のコンソールに集約し、企業情報システム全体の一元管理を実現。事象変化の検知から対処までの自律運用もサポートします。

### ビジュアルな一元管理により管理負担を軽減する統合コンソール

各種プラットフォーム上の業務から、ネットワーク、サーバ、アプリケーションにいたるまで、さまざまなフェーズでの一元管理を実現。すべての事象(イベント)を容易な操作でビジュアルに管理できるため、管理負担を大きく軽減できます。さらに、システム管理者が見たいものを見たい形にグルーピングして監視可能。また、障害あるいはその予兆から影響範囲が予測できるため、障害の連鎖を未然に防ぐことができます。

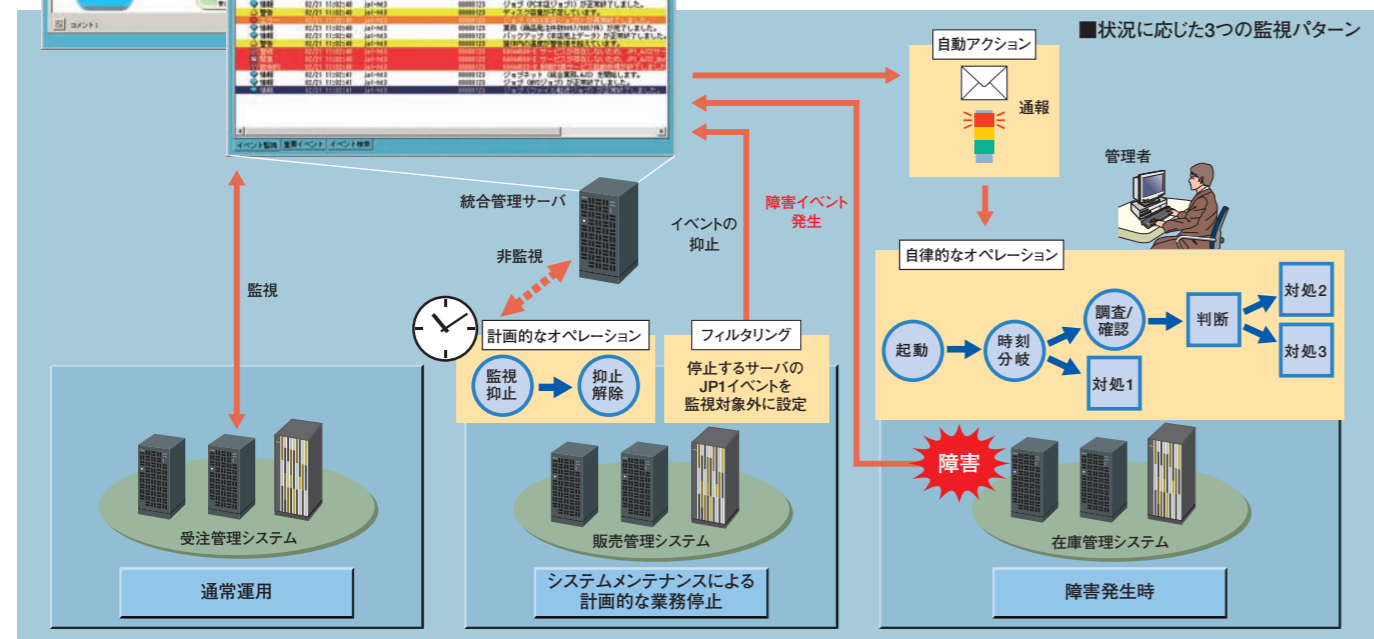
### 効率よい管理を実現するオプション製品

●**事象発生時の運用オペレーションを自動化(ルール管理オプション)**  
障害に関する調査から、それに伴う管理者の判断、その結果としての対処をルール化できます。調査で判明した状態にどのように対応するか判断するだけで、一連の処理が自律的に実行されます。

●**運用オペレーションを計画的に自動化(計画オペレーションオプション)**  
スケジューリングによる高度なオペレーションを提供。システムメンテナンスによる特定サーバおよび特定期間中の監視業務停止など、計画的にオペレーション業務を自動化できます。

●**ITリソース全体を業務視点で可視化(システム情報管理オプション)**  
Webサーバ、APサーバ、DBサーバなど、複数の階層からなるシステムのITリソース全体を業務視点で可視化できます。例えば、ブレードサーバのような複雑でダイナミックな構成環境を管理する際に効果的です。

●**リアルタイムな障害通知(通報管理オプション)**  
パソコンのデスクトップ画面の上に画像やメッセージを表示したり、ピー音を鳴動したりする方法で、障害や問題点をリアルタイムに自動通報できます。また、パトロールランプや携帯電話、電子メールなどを使用することで、目的に応じた自動アクションによる通報が可能になります。



## ITIL®サービスサポートの運用プロセスを一元管理 ITプロセス管理

ITIL®サービスサポートの運用プロセス(インシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理)の統制を実現します。各運用プロセスの作業を記録する際には、必要な情報へのリンクや、ファイルの添付もできます。

また、登録する各項目は、お客さまの業務に合わせて変更することも可能。さらに、作業ごとに遷移の履歴を表示できるので、滞留がないか、不正な手順で作業が行われていないかなどの確認ができます。

## ■ アベイラビリティ管理

インターネット・サービス、OS、アプリケーションなどの稼働情報を多様な側面から収集。これらを一元管理して横断的に分析することで、常に安定したシステムの稼働を実現します。

### 将来にわたり性能維持を実現するサーバ稼働管理

UNIX、Windows®、Linuxで構築された分散システム上のOS、データベース、各種アプリケーションのパフォーマンスを統合的に管理できます。また、収集した稼働情報を長期にわたり蓄積。システムリソースの追加投資を図る上で欠かせない情報を入手できます。

●**問題の事前検知と連動した自動アクション**  
システムが危険な状態になる前に、システム管理者へのメール通知や外部コマンドを自動実行するアラーム機能により、障害を未然に防止。万一の場合でもダウンタイムを最小限に抑えられます。

●**問題の特定から解決までを支援**  
収集した稼働情報には、障害の箇所や原因の特定に役立つデータが豊富に含まれます。これらデータの中で、関連性のある監視対象をグラフに重ね合わせて表示できるので、データの相関がひと目でわかります。これにより、問題の特定から解決までの時間を短縮できます。

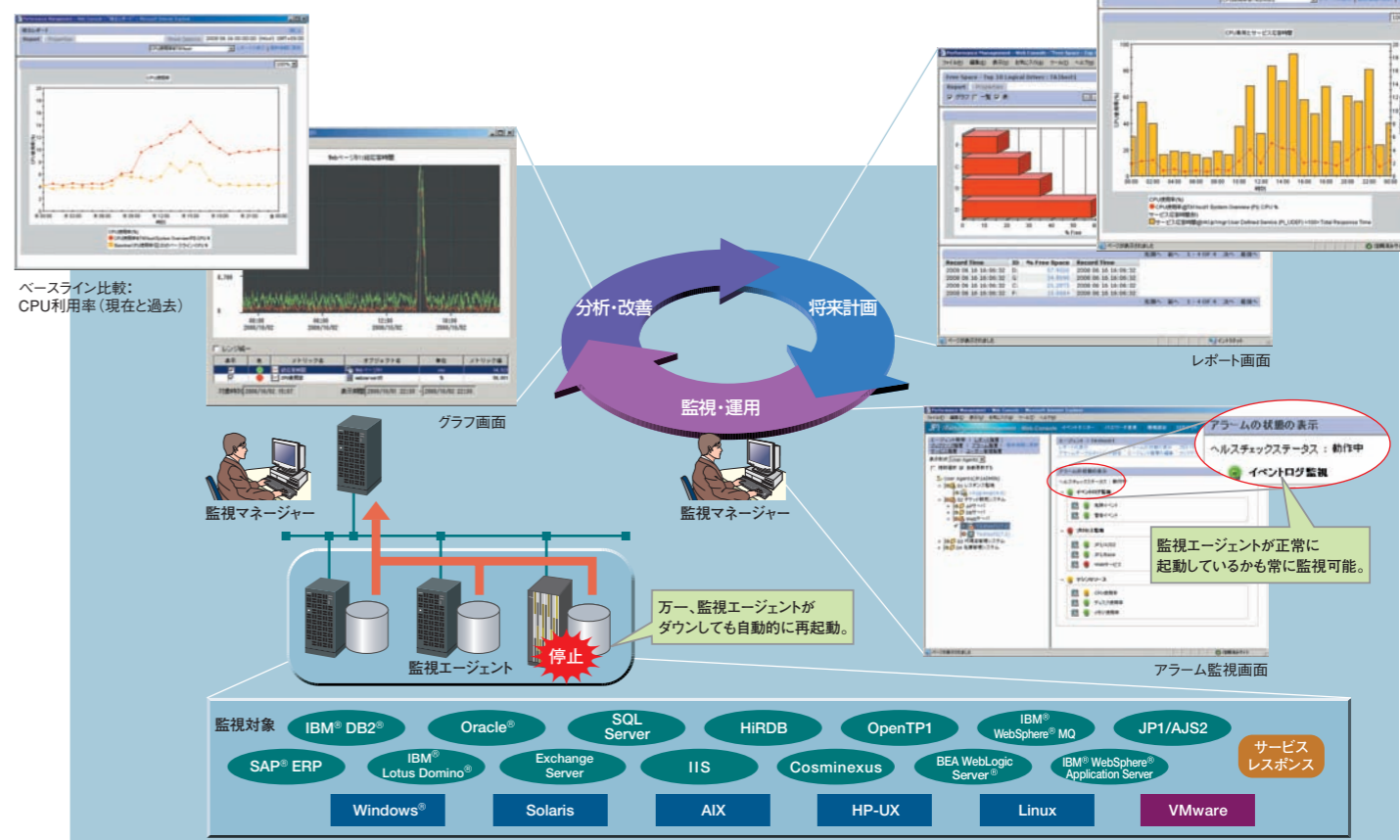
●**すぐに監視が始められるテンプレートを提供**  
収集したパフォーマンス情報の中に危険域や警告域のしきい値に達した情報を発見した際、システム管理者へ通知する方法や、管理レポート表示形式を、定義済みテンプレートとして標準で提供。インストール直後からスムーズに運用を開始できます。

●**システム稼働状況の妥当性を容易に評価**  
テストフェーズなど安定運用している期間の稼働情報の値を基準(ベースライン)とし、運用開始後の値との比較表示ができます。これによって、システムが正常に稼働しているかどうかを容易に評価できます。

●**多角的な稼働性能情報による的確な状況把握**  
システム全体を対象に、インターネットサービス利用者やシステム管理者の双方から見た場合の稼働性能情報を収集。複数の情報に基づいて分析できるので、稼働状況を正確かつ具体的に把握することができます。

●**多彩な分析手法による問題の未然防止**  
将来、システムで問題が発生しそうな箇所を把握できるプロアクティブな管理を実現します。

●**長期間にわたる稼働情報を効率良く管理**  
期間を指定した差分バックアップにより、稼働情報のバックアップ負荷を軽減。バックアップした稼働情報は、必要となるデータだけをインポートし参照できるため、膨大な稼働情報を効率良く管理できます。



# 環境の変化やビジネスの成長にすばやく対応。信頼性の高いシステム運用と業務の自動化を実現したい。



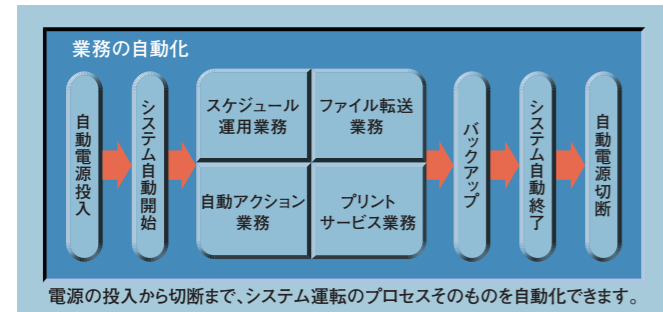
## ジョブ管理

各拠点に分散しているマルチプラットフォーム上の業務を自動化。人的ミスや不正操作を防止するとともに、安定した業務運用を実現します。

### ミッションクリティカルな日常業務を自動化する ジョブスケジューラ

各拠点に分散しているマルチプラットフォーム上の業務をスケジュールに合わせて自動実行。サーバ数千台の大規模システムにも柔軟に対応する拡張性と、クラスタ対応やディザスタリカバリによる信頼性の向上により、24時間止まらない業務を支えるとともに、お客さまの運用負担を大幅に低減します。また、操作ログにより、これら業務運用に関わるユーザー操作が適切な管理手続きに従って行われているかを検証することもできます。

#### ■システム自動運用の1日の流れ



電源の投入から切断まで、システム運転のプロセスそのものを自動化できます。

#### ●ジョブを簡単に定義可能

画面上でフローチャートを描くように、複数のジョブの実行順序関係をジョブネットとして定義できます。異常終了時にのみ実行するジョブ、ジョブネットも定義できます。

#### ●豊富な実行手段で柔軟な自動化をサポート

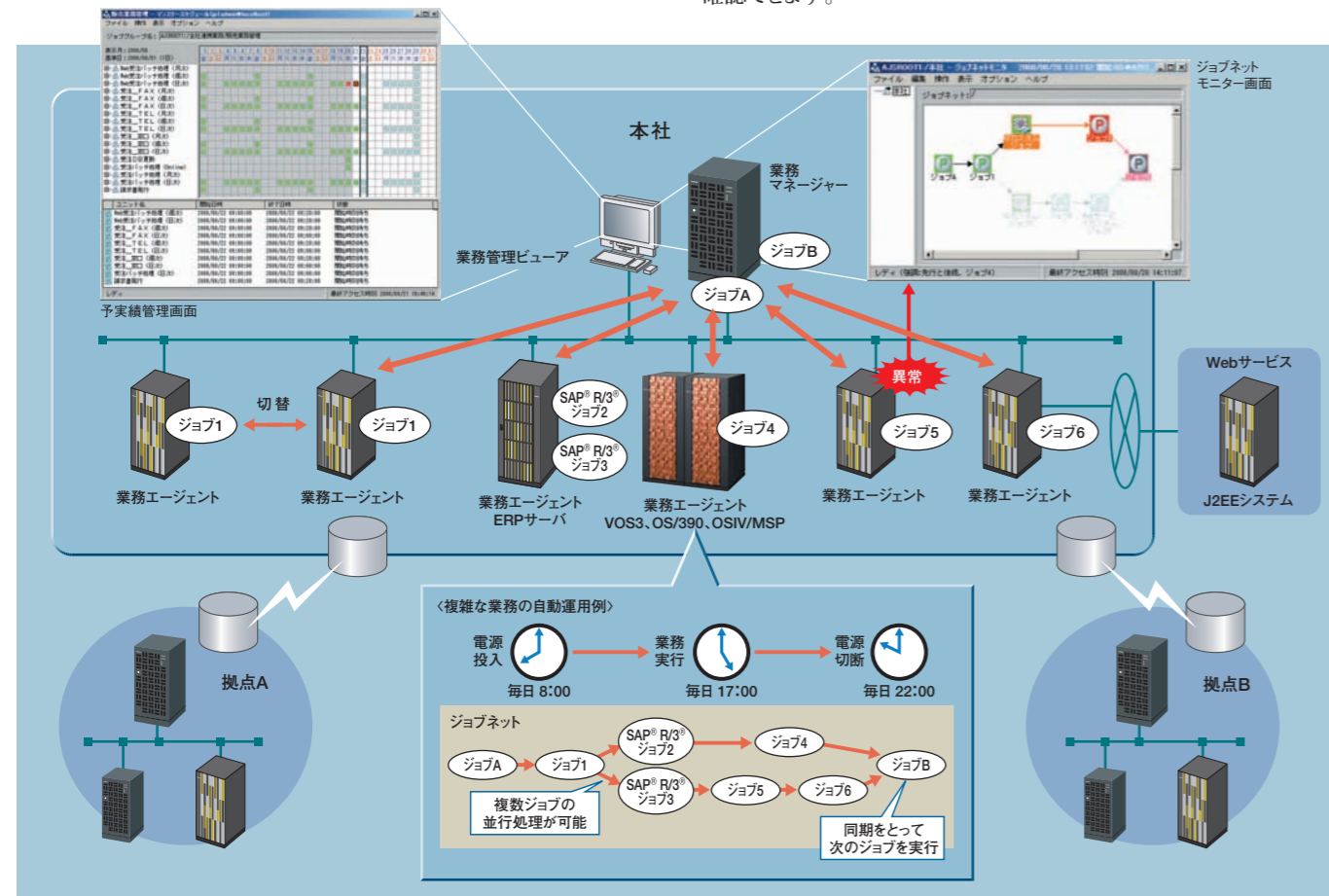
実行日時や実行サイクルで自動実行する「計画実行」、イベントの到着契機で実行する「イベント実行」、および突発的な業務に対応する「即時実行」など、豊富な実行手段で柔軟な自動化をサポートします。

#### ●実行状況のビジュアルな監視

実行中のジョブや実行が終了したジョブ、さらには開始や終了が遅れているジョブなど、実行状態によって表示色が変わるので、分かりやすく監視できます。

#### ●予実績を分かりやすく一覧表示

ジョブ全体の実行状態を、予定を含めてビジュアルに監視できます。当日および過去のジョブ実行の予実績を一覧表示するので、ひと目で確認できます。



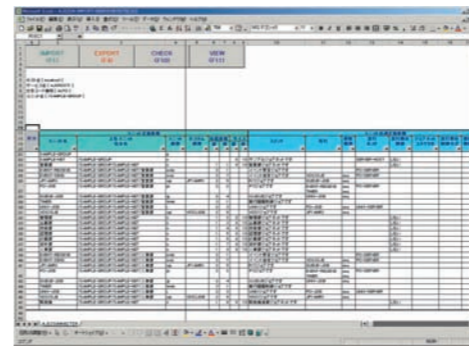
### 運用作業の信頼性向上と効率化を実現する オプション製品

#### ●帳票をより簡単に作成<運用情報印刷オプション>

ジョブネットの定義情報や実行予実績情報などを帳票形式で表示および印刷できます。CSV形式で出力することも可能で、日々の業務に不可欠なドキュメント化を支援します。

#### ●大量の定義を効率良く編集<ジョブ一括定義オプション>

大量のジョブやジョブネットの新規作成・変更・削除を一括実行。新規業務の追加や既存業務の変更が多い場合や、サーバ増設、開発機から運用本番機への移行作業などに効果的です。



ジョブ定義情報管理テンプレート画面

#### ●複数業務サーバの監視<Webブラウザ操作オプション>

複数業務サーバの各業務の状態を一覧表示できるので、ジョブやジョブネットの監視や操作をWebブラウザ上から一元的に行えます。業務の実行中止や再実行などの指示も可能です。

#### ●サーバ構成変更を容易に管理<構成管理オプション>

業務システムのサーバ構成や環境設定情報を一元管理できます。各サーバの環境設定情報はファイルに出力でき、さらにGUI画面で編集することも可能。また、設定前と設定後など2つのファイルを画面上で容易に比較できるので、設定ミスを軽減できます。この情報は他のサーバにも適用できるので、環境設定にかかる負担を低減できます。



プロファイル比較結果画面

#### ●ERPツールのジョブも一元管理<ERP連携オプション>

ジョブの1つとして、SAP® R/3®ジョブを定義できます。他の業務と連動したワンシステムイメージで効率良く運用できます。

#### ●Webシステム上の業務との連携を容易に実現<Webサービス連携オプション>

WebサービスおよびJavaプログラムをジョブの1つとして、一連の業務に組み込むことができます。また、Webシステムからジョブスケジューラで定義したジョブ・ジョブネットを実行、監視することもできます。

●業務データや帳票のPDF化を自動化<活文PDFstaff連携オプション>  
ジョブネットの中にPDF変換ジョブを追加し、簡単なGUI操作で必要項目を設定するだけでPDFの作成を自動化できます。自動化することで作業負担を軽減するだけでなく、PDF化する帳票の漏れや、セキュリティの設定漏れなどのミスを低減できます。

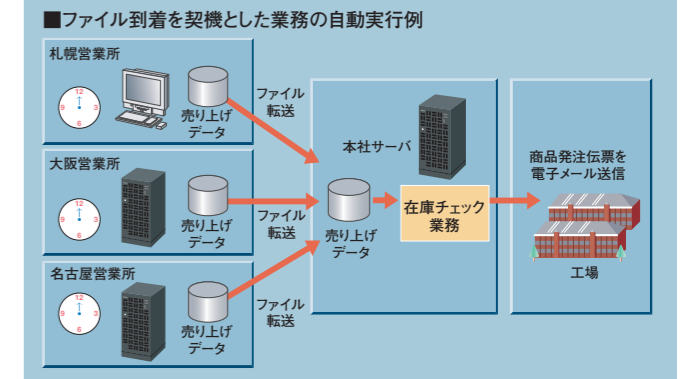
#### ●業務環境に応じた動的なシナリオ運用を実現<シナリオ管理基盤>

急激な負荷変動など、業務環境に応じた一時的なシステム変更や、ビジネスポリシーに沿ったシナリオ運用を自動化できます。例えば、システム全体を停止させないでサーバを1台ずつ停止しながらパッチなどを適用するローリングアップデートのような複雑なシステム運用手順をシナリオとして蓄積し、必要なときに自動実行できます。

### さらに高度な業務の効率化を実現する 連携製品

#### ●信頼性の高い転送業務を実現<ファイル転送>

転送業務を自動化・効率化するための充実した機能を提供。業務と連携したファイルの送受信、スケジュール転送、受信後のプログラム自動起動などがスムーズに行えます。さらに、転送状態や結果の把握・確認も容易で、信頼性の高いファイル転送業務を実現できます。



#### ●PC上でUNIX並みのジョブ実行環境を作成<ジョブ制御言語>

UNIXのシェル相当の機能により、PC上で高度なジョブ実行環境を作成できます。PC上のBASICに似たコマンドで開発できるため、複雑なバッチジョブ作成の生産性を大幅に向上できます。

#### ●サーバ電源の自動的な制御およびリモート制御<電源管理>

サーバの電源制御装置と連携することで、電源の投入/切断を指定した日時に自動的に行えます。ジョブスケジューラと組み合わせて運用することで効率的な電源制御ができ、省電力に対応した運用の自動化を実現できます。

#### ●メインフレームのバッチジョブも一元管理<メインフレーム版ジョブスケジューラ>

Windows®、UNIX、Linuxのジョブスケジューラと同様に、メインフレームのバッチジョブ運用も統一された操作性で自動実行。企業情報システム上で稼働する異機種間のバッチジョブを一元的に管理できます。

# 企業のコンプライアンス対応の第一歩として、社内全体の情報セキュリティ対策とIT資産管理を。さらに、業務プロセスの証跡記録によりビジネスの透明性を証明したい。



## 資産・配布管理

IT資産のセキュリティ対策状況、稼働ソフトウェア、ハードウェアの変更や操作内容を把握し、企業のコンプライアンス対応の強化をITシステム管理の側面から支援します。

### クライアントPCのセキュリティ対策に効果を発揮するソフトウェア配布・資産管理

●**クライアントPCの各種情報（インベントリ情報）を一元管理**  
クライアントPCのハードウェア情報、ソフトウェア情報などのインベントリ情報をサーバ側で一元管理します。

- ・ハードウェア情報（ハードディスク空き容量、実装メモリー容量など）
- ・ソフトウェア情報
- ・セキュリティ関連情報（ウイルス対策製品の常駐/非常駐、パッチの適用/未適用など）
- ・ユーザー固有情報（PC利用者の氏名、所属、電話番号、社員番号など）

### ●操作ログの取得と追跡

ファイル操作、Webアクセス、印刷、外部メディア操作のログを取得できます。ファイル操作に関する一連の動作をGUI画面で追跡することもできます。

### ●ソフトウェアの起動抑止

企業内で使用を禁止している通信ソフトウェアやゲームなどのインストール状況をチェックし、起動を抑止できます。また逆に、業務で利用するアプリケーションなどの許可ソフトウェアだけを使用可能にすることもできるので、未知のソフトウェアなどの起動も抑止できます。

### ●効率的な配布運用

センターサーバからクライアントPCへのソフトウェアの配布・インストールを自動化できます。Windows®パッチについては、簡単な操作で配布できる状態にパッケージするなど効率的な配布運用を実現できます。

### ●セキュリティにも考慮したリモート操作

ネットワークを経由して、クライアントPCの画面を自席端末から操作できます。遠隔地のPCトラブルにも迅速に対応。また、リモート操作接続を許可するPCや操作者を特定できるので、不正アクセスを許しません。

### クライアントPCの内部統制を実現するクライアントセキュリティ管理

セキュリティ対策が不十分なクライアントPCを検出した場合、セキュリティポリシーに従って適切なアクションを実施できます。

### ●ひと目で分かるセキュリティ対策状況

ネットワーク内にあるクライアントPCのセキュリティ対策状況をチェックし、部署ごとや対策項目ごとに、安全率を推移グラフで確認できます。

### ●セキュリティポリシーの自動更新

ウイルス対策製品のエンジンバージョン、ウイルス定義バージョン、セキュリティパッチ更新時に、セキュリティポリシーが自動更新されます。

### ●検疫システムへの拡張

セキュリティポリシーに違反するPCをすばやく検知し、隔離した上で治療。業務ネットワークへの復旧までを自動的に行う検疫システムを構築できます。

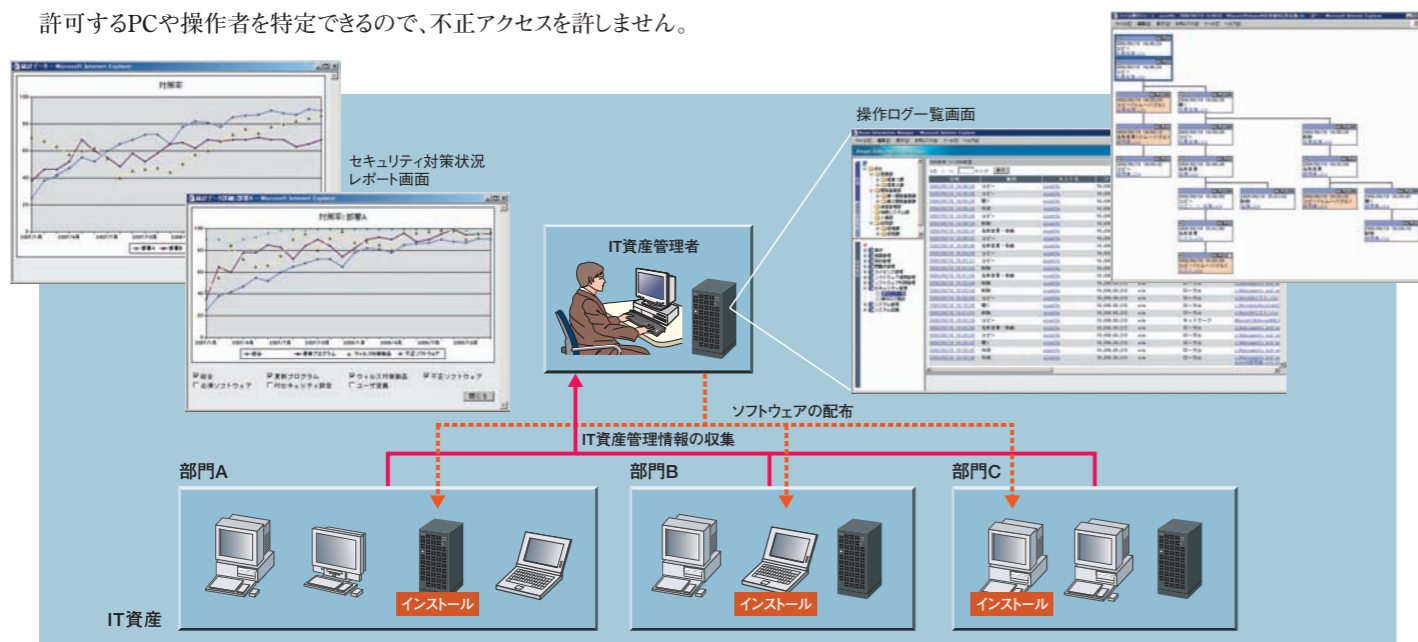
**不正PC接続監視・強制排除機能**  
未許可PCを社内LANに接続できないようにするなど、不正PCの監視・排除を行う簡易システムを構築できます。

### 多様な視点により効率的な資産管理を実現する統合資産管理

IT資産の取得から廃棄までのライフサイクルをトータルに管理します。

### ●ソフトウェアの不正使用を防止するライセンス管理

ソフトウェアの不正使用を監視できます。稼働状況からは、利用されていない機器やソフトウェアを把握でき、投資の適正化を支援します。



## 業務プロセスの正しさを証明する 監査証跡管理

### ●内部統制の評価・監査時に役立つ証跡記録を自動収集

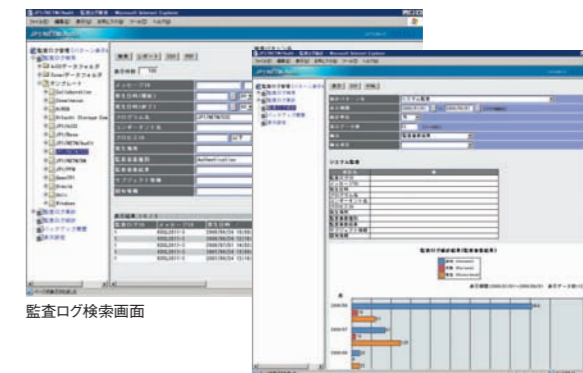
監査時には、業務の変更やシステム変更などの証跡記録が必要となります。これらを自動的に収集、蓄積することで、お客さまの負担を大幅に軽減できます。

### ●証跡記録を安全に保管

収集した証跡記録はバックアップできます。また、証跡記録の復元は、発生期間から容易に特定可能。さらに、バックアップデータのインポート時に、改ざんされたかどうかを検知することもできます。

### ●内部統制の有効性評価や監査時に効果的

システム、業務の監査視点で検索メニューを標準提供しています。過去の証跡記録を参照することで、ルール通りに業務が行われているかを検証できます。



監査ログ統計グラフ画面  
(監査事象の発生推移がひと目でわかる)

## セキュリティ管理

社内での情報共有を推進しつつ、メディア・印刷物による機密情報の不正な持ち出しを防止。万一情報が漏れいたした場合でも、ファイルの暗号化により、第三者の参照をブロックできます。

### クライアントPCからの情報漏えいを強固に防ぐ 情報漏えい防止

### ●メディア・印刷物による不正な持ち出しを防止<持ち出し制御>

共有ファイルなどのネットワークドライブやリムーバブルメディア（FD、MO、USBメモリーなど）への無断コピー、およびプリンタへの無断印刷を制御できます。印刷を許可した場合、印刷物に透かし文字を強制的に挿入することもできます。また、USBメモリーにおいて、印刷やコピーなど情報漏えいにつながる操作を制限。Microsoft® Office文書をUSBメモリーで社外に持ち出す場合でも、USBメモリー内でしか編集・保存が行えないため、情報漏えいのリスクを低減できます。

### ●万一情報が漏れた場合にも第三者の参照を防止<ファイルの暗号化>

ファイルを暗号化することで、万一情報が漏れた場合にも、第三者による機密情報の参照をブロックできます。

### クライアントPC上のファイルの暗号化

PC上のデータをドライブ単位で暗号化できます。PC利用時の認証は、Windows®のユーザーID/パスワードと連携しており、特別な操作は必要ありません。また、iKey\*と連携することで認証時のセキュリティを強化できます。  
\*PCのUSBポートに鍵のように差し込んで利用する認証用USB機器

### 暗号化フォーマットしたメディアへのデータ格納

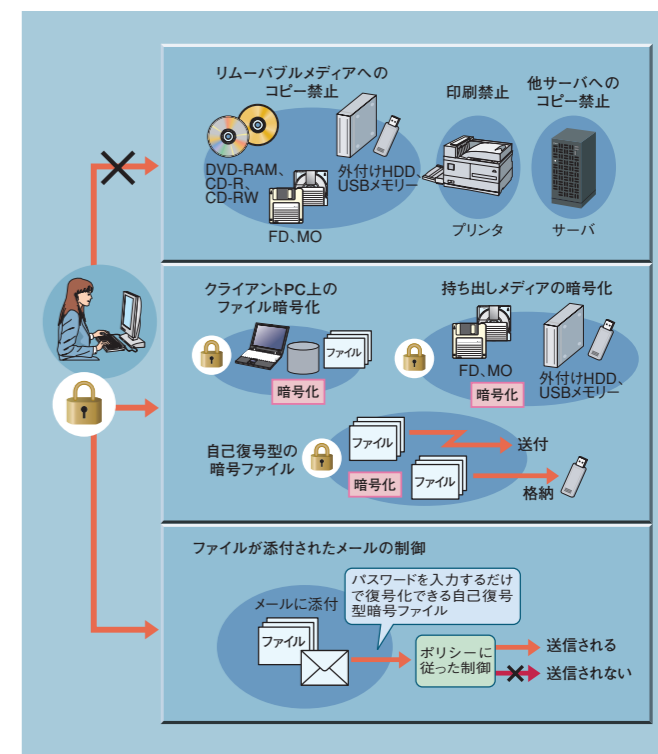
事前に暗号化フォーマットしたリムーバブルメディア（FD、MO、USBメモリーなど）にデータを格納するだけで、持ち出しメディアのデータを暗号化できます。

### 自己復号型暗号ファイルの容易な作成

パスワードを入力すれば復号化できる自己復号型の暗号ファイルを簡単に作成できます。社外へデータを提供したり、メールにファイルを添付したりする際にもより安心です。

### ●メール誤送信による情報漏えいの危険性を排除<メール制御>

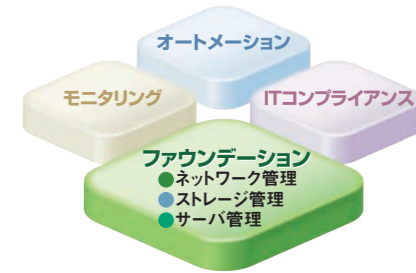
メール制御ポリシーに従い、添付ファイル付きのメール送信を制御できます。例えば、自己復号型暗号ファイルのみを送信許可するという運用を実現。また、添付ファイルを自己復号型暗号ファイルに自動的に変換できます。



### ●情報漏えいの抑止効果を発揮<ログ監視>

「いつ」「誰が」「どんな」ファイルにアクセスし、持ち出したのかといったログをサーバに自動送信。それらをセキュリティ管理者が一元管理できます。

# システムを構成するネットワーク、ストレージ、サーバを効率良く管理したい。



## ネットワーク管理

業界標準のSNMPを採用し、マルチベンダーネットワーク、IPv6とIPv4が混在するインターネット環境、さらにはルータ、スイッチなどの各種ネットワーク機器が混在する環境をビジュアルなインターフェースで集中的に管理できます。

### ネットワークの集中管理で迅速な障害対応を可能にする ネットワーク・ノード・マネージャ

#### ●操作性に優れた管理マップを提供<ネットワーク構成管理>

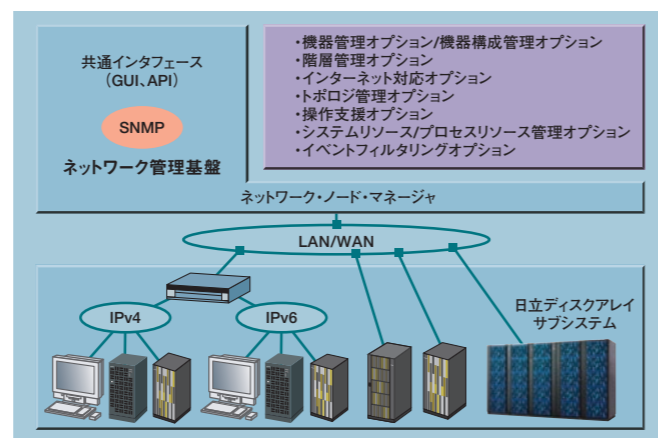
TCP/IPノードを自動的に検出し、ネットワーク管理マップを自動作成。運用中のノードの追加や削除が発生した際には、ネットワーク管理マップを自動更新します。ネットワーク、セグメント、ノードなどを表すシンボルの階層構造に従い、ネットワーク構成がグラフィカルに表示されるので、ネットワークの接続構成を容易に把握できます。

#### ●ネットワーク障害管理と自動アクションを実現

各エージェントに障害が発生した際は、それらの状態を一元管理するマネージャにシンボルの色の変化で障害発生ノードを通知します。また、あらかじめ設定しておいたアクションを自動実行することも可能。管理者への通報などのアクションを自動化でき、迅速な対応をサポートします。

#### ●リアルタイムに性能を監視<ネットワーク性能管理>

SNMPをサポートするエージェントからMIBを収集することで、インタフェース・トラフィックやCPU負荷などの性能情報をグラフ表示し、リアルタイムにネットワーク性能を監視できます。 MIB:Management Information Base



### 管理の幅と監視効率を高める オプション製品

#### ●ネットワーク機器をビジュアルに監視<機器管理オプション>

スイッチ、ルータなどのマルチベンダーネットワーク機器の稼働状況をリアルなパネル画面で監視できます。



パネル管理画面

#### ●ネットワーク構成情報の一元管理<機器構成管理オプション>

ネットワークに点在するスイッチからVALNやロードバランサの構成情報を取得。各機器のインタフェースを意識せずに一元管理できます。

#### ●大規模ネットワークの効率的な管理<階層管理オプション>

集中監視マネージャとエージェントの間に拠点マネージャを配置することで、ネットワーク負荷を抑え、監視サーバの負荷を分散させる階層型の監視構成を実現できます。

#### ●セキュリティを保ったネットワーク管理を実現<インターネット対応オプション>

ネットワーク上の各アプリケーションが使用するTCPやUDPのポートを集約することで、ファイアウォールを挟む通信の設定作業を容易にして、より安全なネットワークを構築できます。また、プライベートアドレスが重複する複数の拠点をNAT経由で監視できます。

#### ●IPv4/IPv6が混在するネットワーク構成をビジュアルに管理<トポロジ管理オプション>

IPv6のネットワークでも、IPv4ネットワークと同じネットワーク管理マップで監視できます。

#### ●メッセージの一元管理と複数システムへのコマンド一括投入を実現<操作支援オプション>

監視サーバから、分散配置された監視対象サーバの運用操作(コマンド実行・実行履歴結果参照・メッセージ収集)ができます。

#### ●ネットワークに分散するシステムリソースやプロセスを監視<システムリソース/プロセスリソース管理オプション>

各種サーバや、SNMPをサポートするネットワーク機器の各種情報をリアルタイムに監視できます。また、各種サーバ上で動作するプロセスについてもビジュアルに監視できます。

- ・性能情報: CPU利用率、実行待ちキュー長など
- ・統計情報: システムコール発行数、割り込み発生数など
- ・稼働情報: ディスク使用率、メモリー空き容量など
- ・トラフィック情報: 回線使用率、入出力パケット数など

#### ●フィルタリングによる効率的なネットワーク監視を実現<イベントフィルタリングオプション>

監視の運用に合わせて、保守作業中の障害通報抑止や、同一イベントの自動受諾など、管理者にとって本当に確認が必要なイベントを絞り込んで表示できます。

## ストレージ管理

SAN/NAS環境のストレージ運用\*、マルチプラットフォーム環境のバックアップ運用を一元管理。TCOの削減とストレージシステムの安定稼働を支援します。

### プラットフォームの壁を越えたデータ保護を実現する バックアップ管理

#### ●3階層アーキテクチャによる集中管理を実現

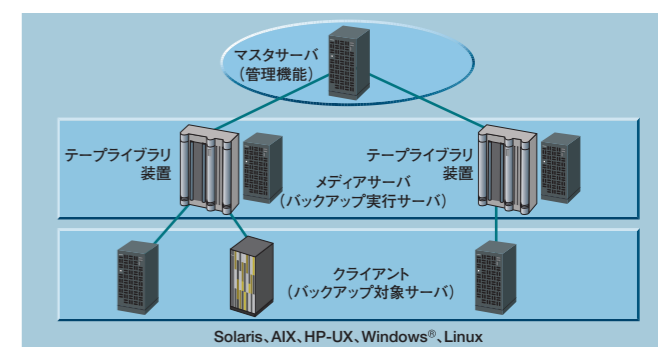
マスタサーバ(管理機能)、メディアサーバ(バックアップ実行サーバ)、クライアント(バックアップ対象サーバ)による論理的な3階層アーキテクチャにより、バックアップ/リストアを集中管理。複数のメディアサーバのジョブも、マスタサーバで集中的に管理・制御できます。メディアサーバはクライアントの増設に応じて拡張できるため、将来的なシステム拡張にも柔軟に対応。小規模からマルチプラットフォームの大規模システムまで、より確実なデータ保護を実現できます。

#### ●バックアップの効率化によるリカバリ時間の短縮<合成バックアップ>

前回のフルバックアップと差分バックアップを合成して、最新のフルバックアップ相当のデータを作成することができます。これにより、負荷の大きいフルバックアップの実行回数を減らすとともに、リカバリ時間を短縮します。

#### ●不要なファイルのリストアを抑止<TrueImageリカバリ>

差分バックアップで一度バックアップしたファイルが、その後削除されたかどうかを管理できます。前回のバックアップ後に削除された不要なファイルをリストアする無駄を省くことができます。



#### ●多様なニーズに応えるオプション製品

- ・ネットワーク経由のバックアップを実現する「クライアントオプション」
- ・データベースのオンラインバックアップを実現する「データベースエージェントオプション」
- ・NDMPサーバ(NASサーバ)のバックアップを実現する「NDMPオプション」
- ・データの遠隔地保管を支援する「Vaultオプション」

\* SAN/NAS環境のストレージ運用については、JP1の連携製品である「日立ストレージ管理ソフトウェア」製品を提供しています。膨大なデータが集中するストレージシステムの安定稼働を支援します。

## サーバ管理

ハードウェアの構成管理や障害監視、OSの一括インストールなど、サーバ運用を効率良く管理。ブレードサーバなどハードウェアの特長を活かした運用管理・制御を実現します。

### ハードウェア構成管理によりサーバ能力を最大限に引き出す サーバ運用管理

#### ●ハードウェア構成情報の一元管理

システム装置などの資産情報、電源制御、稼働状況監視および障害監視などの運用を一元管理。システム管理者の負担を軽減します。

#### ●ラック単位での管理

操作性に優れたGUI画面により、ブレードサーバをラック単位で容易に管理できます。

#### ●可用性を高めるN+1コールドスタンバイをサポート

SANブート環境でのサーバ障害発生時に、障害サーバを系から切り離し、予備サーバへ迅速に切り替える「N+1コールドスタンバイ」によるシステム復旧をサポートします。

<その他の管理項目>

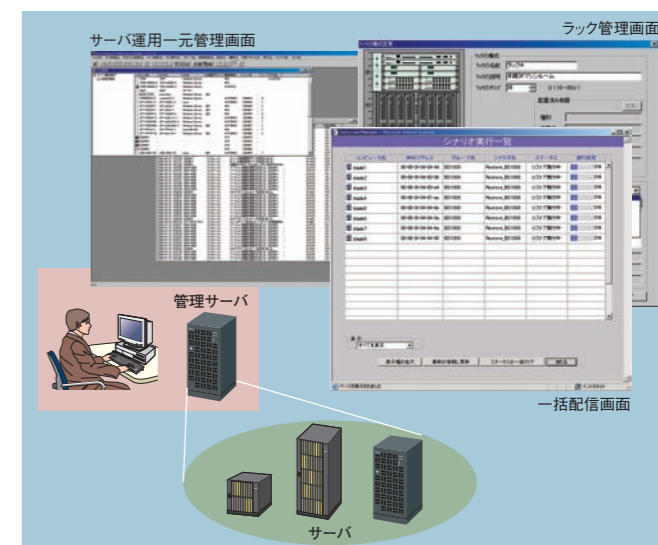
- ・リソース使用率の監視
- ・リソース管理
- ・遠隔監視
- ・構成変更支援

### イメージ一括配信によりシステム構築・保守時間を短縮する デプロイメント管理

セットアップ済みのサーバのシステムディスクイメージを複数サーバに同時配信し、自動的にOSをセットアップ。パッチの一括配信も可能で、システムの構築・導入・保守にかかる時間を大幅に短縮します。

### 管理情報の一元管理により高度なシステム運用を実現する 統合サーバ管理

「サーバ運用管理」「デプロイメント管理」の管理情報をさらに集約して、一元的に管理できます。これにより、コマンドラインインターフェースによる便利な操作や、[統合管理][ジョブ管理]で提供する機能と連携した高度なシステム運用が実現できます。



システム構成が複雑な仮想環境でも、迅速な問題解決とシステムの安定稼働を維持したい。

## ソリューション例1 VMware環境の安定稼働を支援



### 現状の課題

- 仮想マシンに問題が発生した場合、業務への影響範囲の把握と発生箇所の特定に時間がかかる。
- 仮想環境を利用しているが、安定した状態なのかどうか不安。
- 仮想マシンのバックアップ時に物理サーバ全体の性能が低下して、他の仮想マシンの業務に影響を与えることがある。

### 導入効果

- 問題が発生した仮想マシンから業務への影響範囲を確認し、実際に対策が必要な物理サーバを特定できます。
- 稼働情報を仮想マシンと物理サーバの両面から分析できるので、仮想環境のリソース配分の見直しやリソースの増強など、適切な判断によるシステムの安定稼働を支援します。
- 仮想環境でも業務に影響を与えることなく効率的なバックアップ運用ができます。

### ソリューションを支える主な製品

#### ■モニタリング

##### 統合コンソール

システム全体を一元管理。システム管理者が見たいものを見たい形にグルーピングして監視可能。また、障害あるいはその予兆から影響範囲が予測できるため、障害の連鎖を未然に防止。

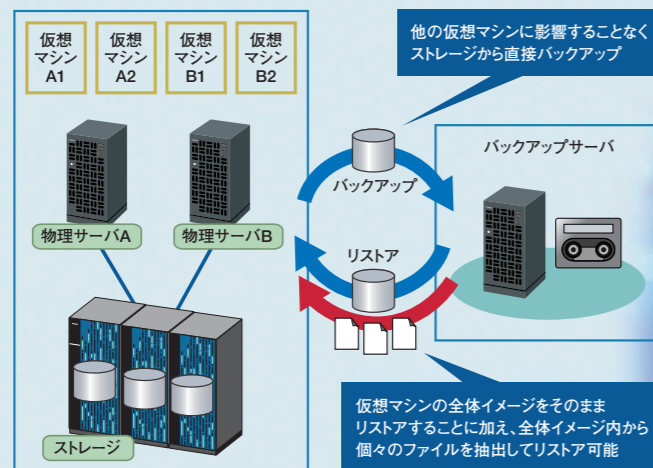
##### サーバ稼働管理

Windows®, UNIX, Linuxで構築された分散システム上のインターネット・サービス、OS、各種アプリケーションのパフォーマンスを効率良く管理。

#### ■ファウンデーション

##### バックアップ管理

Windows®サーバ1台の小規模システムから、マルチプラットフォーム環境の大規模システムまで、複雑・多様化するシステムの企業データをセキュアに保管し、万一の場合には迅速な復旧を可能にするバックアップ/リカバリ運用を実現。

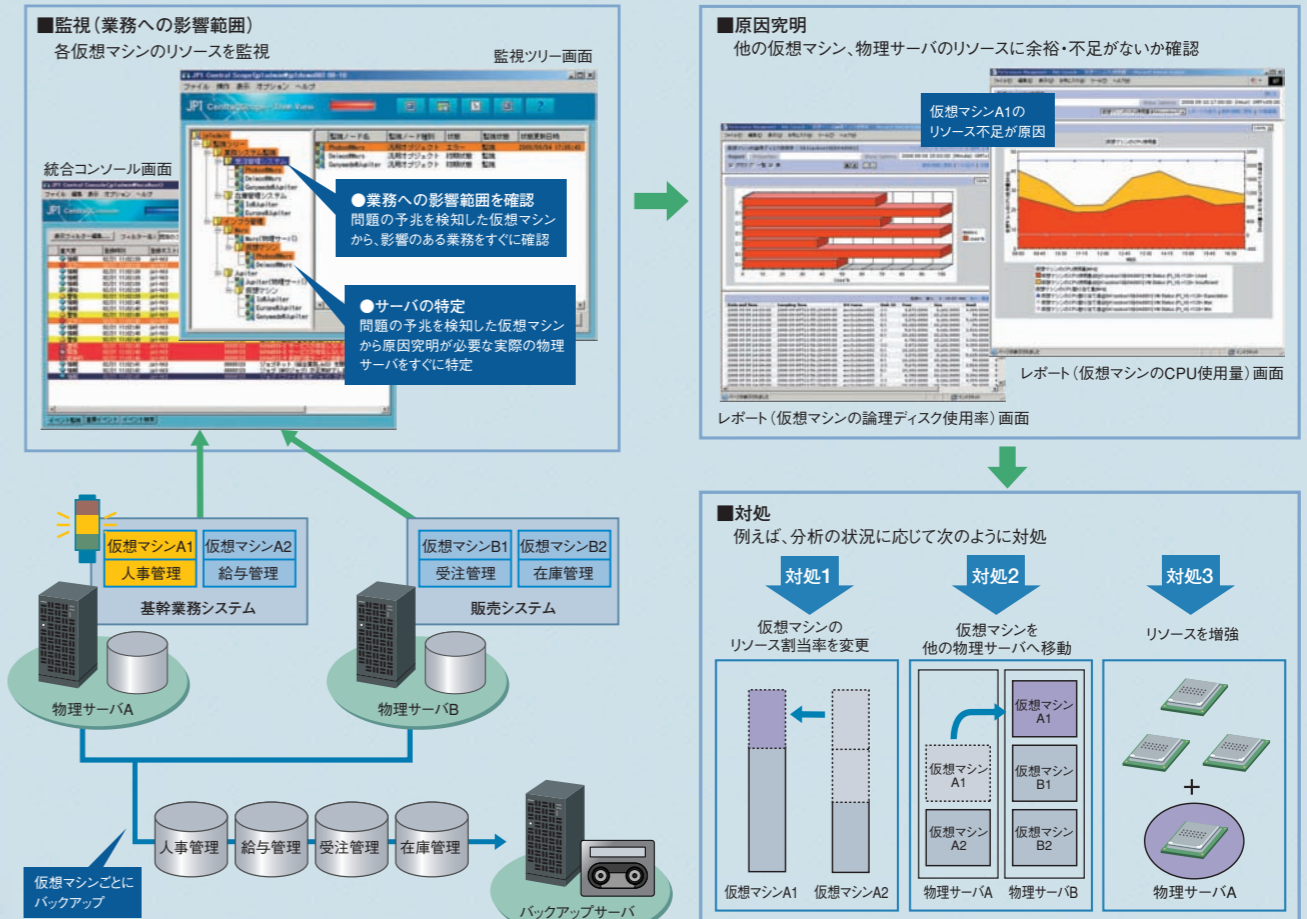


### ソリューション解説

仮想環境上の仮想マシンと物理サーバの対応がひと目で分かる監視環境を実現。障害箇所の特定から業務への影響範囲までを迅速に把握できます。また、仮想マシン上のバックアップも業務に負荷をかけることなく実現可能。さらに、仮想マシンおよび物理サーバそれぞれの稼働情報を収集できるので、仮想環境と物理環境を考慮したシステム計画を立てられます。例えば、仮想環境の設定情報をチューニングするだけで対応できるか、または物理的にリソースを拡張する必要があるかといった検討ができます。

### 運用例

仮想環境を含むシステム全体を一元管理。問題が発生した場合の影響範囲を特定できます。また、仮想マシンだけでなく、物理サーバも含めた稼働状況の監視により、仮想環境での問題の予兆検知から影響範囲の特定、さらには適切なチューニングなどの対処をスムーズに実行できます。



事象発生時の運用オペレーションを自動化し、迅速な対処を実現したい。

## ソリューション例2 運用ノウハウをシステム化した効率的なオペレーション



### 現状の課題

- 障害の検知から復旧までに時間がかかりすぎている。
- 専門知識を持った人しか障害に対応できず、人為的な操作ミスが頻発している。
- 事象発生時の障害対応に人手をかけているため、管理コストが増大している。

### 導入効果

- 障害による**ダウンタイムを極少化**し、ビジネスに与える影響を最小限に抑えます。
- 複雑な作業を自動化し、**人為的ミスのない**高信頼なシステム運用を実現します。
- 自動化の対象を拡大**することで、管理者の負担を軽減するとともにTCO削減をサポートします。

### ソリューションを支える主な製品

#### ■モニタリング

##### 統合コンソール

システム全体を一元管理。システムで発生したイベント（障害など）の監視から、問題の検知、調査、対策までの一連の運用サイクルを統合管理。

##### ルール管理オプション

システムで発生したイベントに対する調査・対処を自動化し、システムの自律運用をサポート。

##### サーバ稼働管理

OSやアプリケーションプログラムなどの稼働情報を一元的に監視・分析。

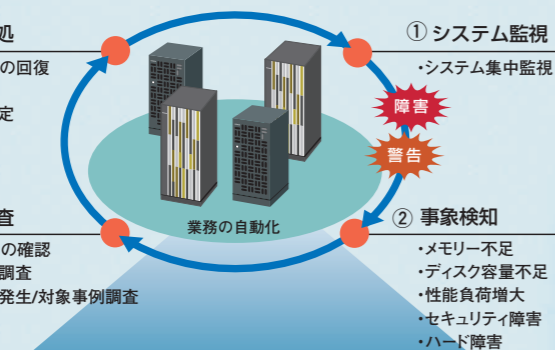
#### ■オートメーション

##### ジョブスケジューラ

業務の自動運用に必要なジョブ定義・実行・監視・実績管理などの機能を提供。

#### ④ 事象対処

- ・障害（問題）の回復
- ・暫定対処
- ・影響範囲限定
- ・通知



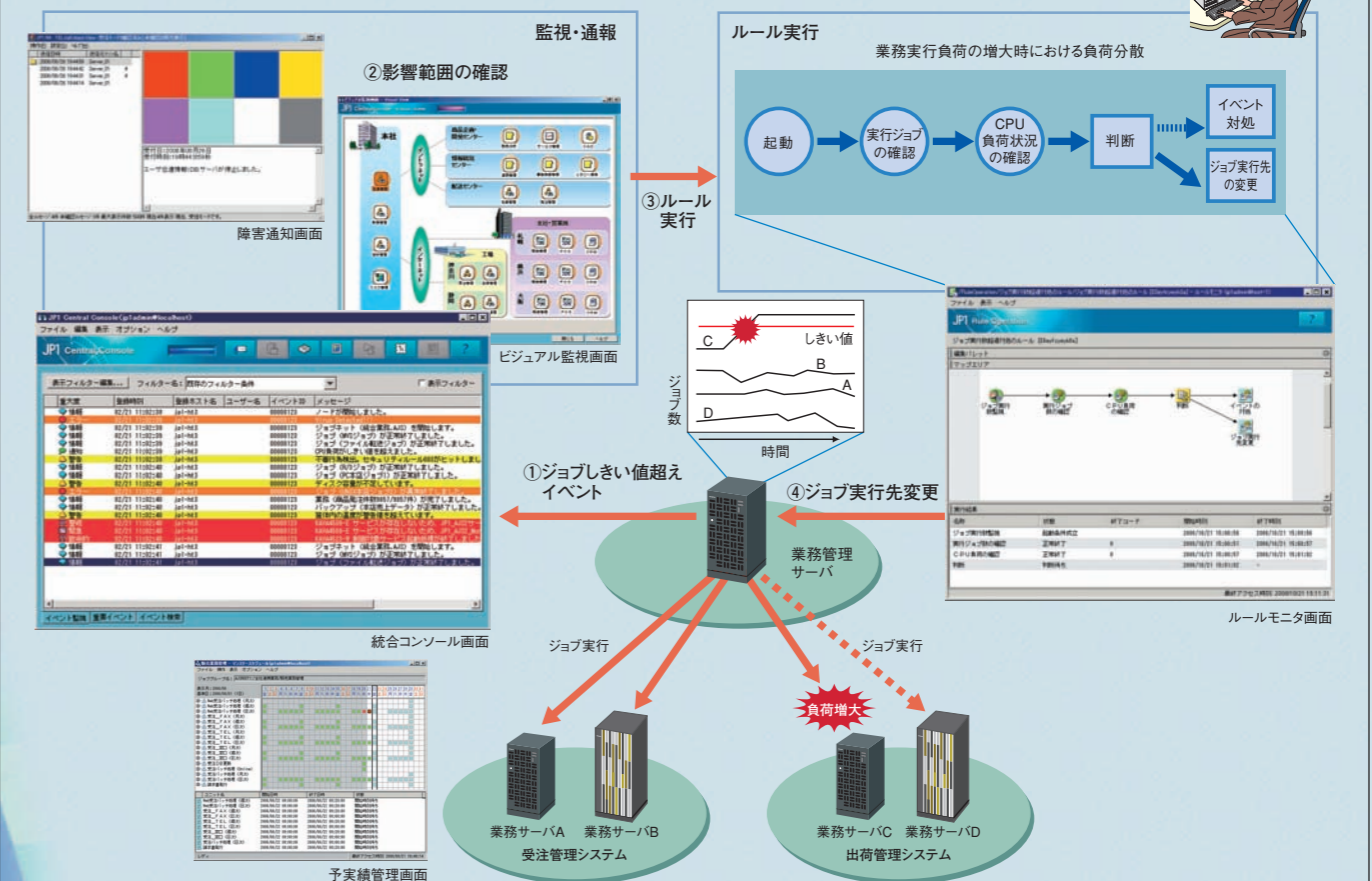
### ソリューション解説

管理者が手動で行っていた調査・確認から判断・対処までの操作を、事象発生（業務の高負荷など）を契機に一連の運用オペレーションとして自動化できます。通報などの単純なアクションだけでなく、高度なオペレーションも自動化できるので、ハイレベルなサービス品質を維持することができます。

### 運用例

事象発生を契機にした運用オペレーションを自動化します。

- ①業務サーバCのジョブ実行でしきい値超過が発生。
- ②JP1イベント（アラート）を統合コンソールが検知し、本障害が及ぼす業務への影響範囲を確認。
- ③あらかじめルール化した「業務実行負荷の増大時における負荷分散ルール」を適用。
- ④実行ジョブ数とCPU負荷を確認して条件が成立した場合、管理者の判断により、ジョブ実行先を業務サーバDに切り替える対処を実行。





さまざまな脅威に対してセキュリティ対策を実施し、クライアントPCの 統制を図りたい。

## ソリューション例 3 4つの視点で実現するクライアントセキュリティ

### 現状の課題

- クライアントPCのセキュリティ対策漏れを把握しきれない。
- 許可していないソフトウェアが原因で機密情報が漏えいした。
- 機密情報を格納したリムーバブルメディアを紛失し、情報漏えいが発生した。
- 機密情報のコピーや印刷など、ユーザーの不正な操作を管理しきれない。

### 導入効果

- すべてのクライアントPCを一元管理でき、脆弱なPCを自動的に治療できます。—— **つながせない**
- 許可していないソフトウェアの起動を抑制できます。—— **使わせない**
- リムーバブルメディアへのコピーを抑制しプリンタへの無断印刷も禁止できます。—— **持ち出させない**
- 「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」操作したかをトータルに追跡調査できます。—— **見逃さない**

### ソリューションを支える主な製品

#### ■ITコンプライアンス

##### クライアントセキュリティ管理(つながせない・見逃さない)

クライアントPCのセキュリティ対策状況をセキュリティポリシーに従って管理。クライアントPCの危険レベルに対して、ネットワークからの遮断や警告メッセージを送るなど、必要なアクションを自動実行。

##### 不正PC接続監視・強制排除(つながせない・見逃さない)

不正接続したクライアントPCをネットワークから排除。また、必須ソフトウェアがインストールされていない場合や、ウイルス対策が万全でない場合など、運用ルール上問題があるクライアントPCの利用も強制的に禁止。

##### ソフトウェア配布・資産管理(使わせない・見逃さない)

許可していないソフトウェアの起動を抑制可能。また、クライアントPCの利用状況や不正操作などを把握でき、監視の事実を告知したり、禁止操作について利用者に警告することで、不正な操作や行動を抑制。

##### 情報漏えい防止(持ち出させない・見逃さない)

リムーバブルメディア (FD、MO、USBメモリーなど) や共有ファイルなどネットワークドライブへのデータの無断コピーを禁止。さらにプリンタへの無断印刷も禁止。

##### セキュアクライアントソリューション(持ち出させない)

ハードディスクを持たないセキュリティPCにより、PCの盗難・紛失による情報漏えいの危険性をなくします。出張先や外出先から認証デバイスを用いた、より安全な方法で社内システムに接続でき、場所を選ばずに社内のPC環境を使用できます。

FLORA Se210 [RK1]

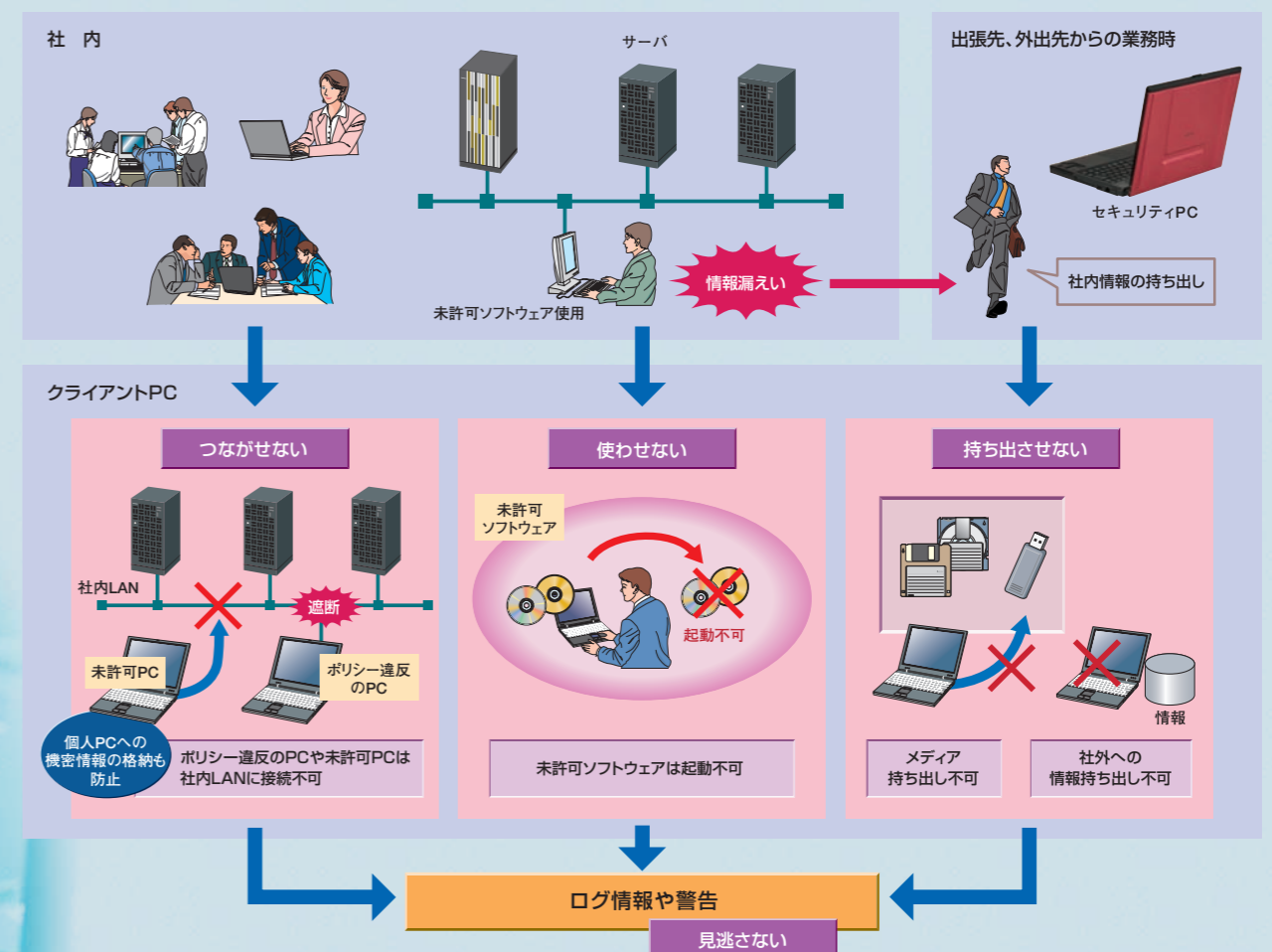


### ソリューション解説

ITによるコンプライアンス対応を実現するためには、ITコンプライアンスに則ったクライアントPCの管理が必要です。重要データの社外への持ち出し、個人PCの業務利用、さらにウイルス感染など、それぞれのリスクに適切に対処しなければなりません。JP1では「つながせない」「使わせない」「持ち出させない」「見逃さない」という4つの視点からクライアントPCの統制を実現し、企業の健全性・信頼性の維持を支援します。

### 運用例

JP1では、利用状況に応じた効果的なセキュリティ対策を実現し、企業活動に影響を及ぼすさまざまな脅威から、企業情報システムを強固に守ります。



## ソリューション例4 ITIL®サービスサポートへのJP1適用



### 現状の課題

- 問題となった障害の対応状況を調べるのが大変。
- すでに実績のある対処方法であっても、担当者によって回答が違ったり、回答できないこともある。
- 各担当者が独自の判断をしていたため、問題が起こったとき原因を把握できない。
- 報告用レポートを作成するのに手間がかかる。

### 導入効果

- 作業ごとに遷移履歴を表示できるので、**実行状況を瞬時に把握**できます。
- 過去の**情報が共有**できるので回答が統一されるとともに、問題解決にかかる時間を短縮できます。
- 各担当者の作業を審査・承認することで**各プロセスを統制**し、業務改善や正しい運用を促します。
- インシデント件数等の各種情報を集計して、日次/週次/月次での**運用レポートを作成**できます。

### ソリューションを支える主な製品

#### ■モニタリング

##### ITプロセス管理

ITIL®サービスサポートの運用プロセス（インシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理）を統制。作業ごとに遷移の履歴を表示できるので、状態確認が容易。

##### 統合コンソール

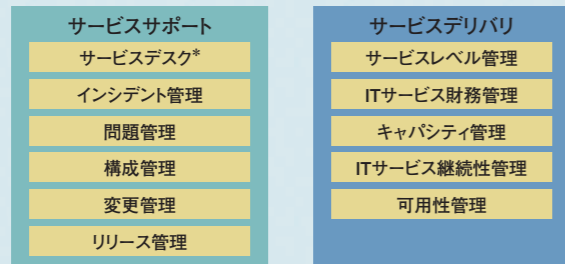
業務の実行状況やサーバ稼働状態など、システムで発生したイベント（障害など）を監視。イベントは、ITプロセス管理にインシデントとして自動登録することも可能。

#### ■ITコンプライアンス

##### 監査証跡管理

業務運用の変更などの証跡記録を一元管理。参照したい証跡記録は、日時や発生期間などをキーに容易に参照可能。

#### ITIL®サービスマネジメントの体系



\*サービスデスクは機能であり、プロセスではありません。

#### ■サービスサポート

ITサービス利用者からの問い合わせやシステムで発生した問題点を迅速に解決するためのプロセス群

#### ■サービスデリバリ

キャパシティ、稼働時間、可用性など、ITサービス運営者に高品質なサービスを提供するためのプロセス群

### ソリューション解説

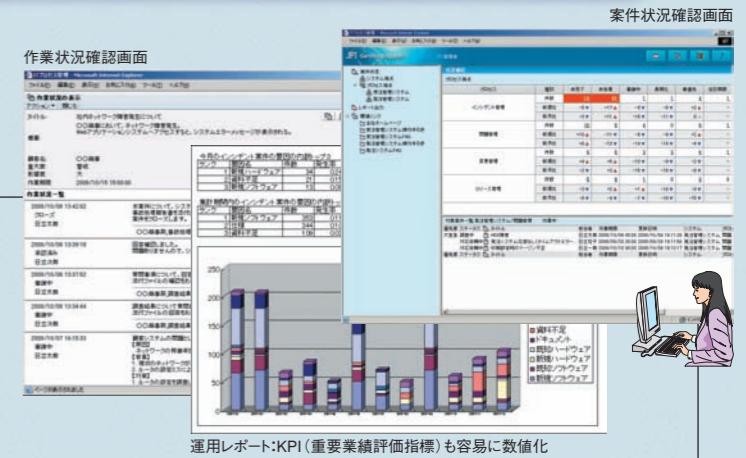
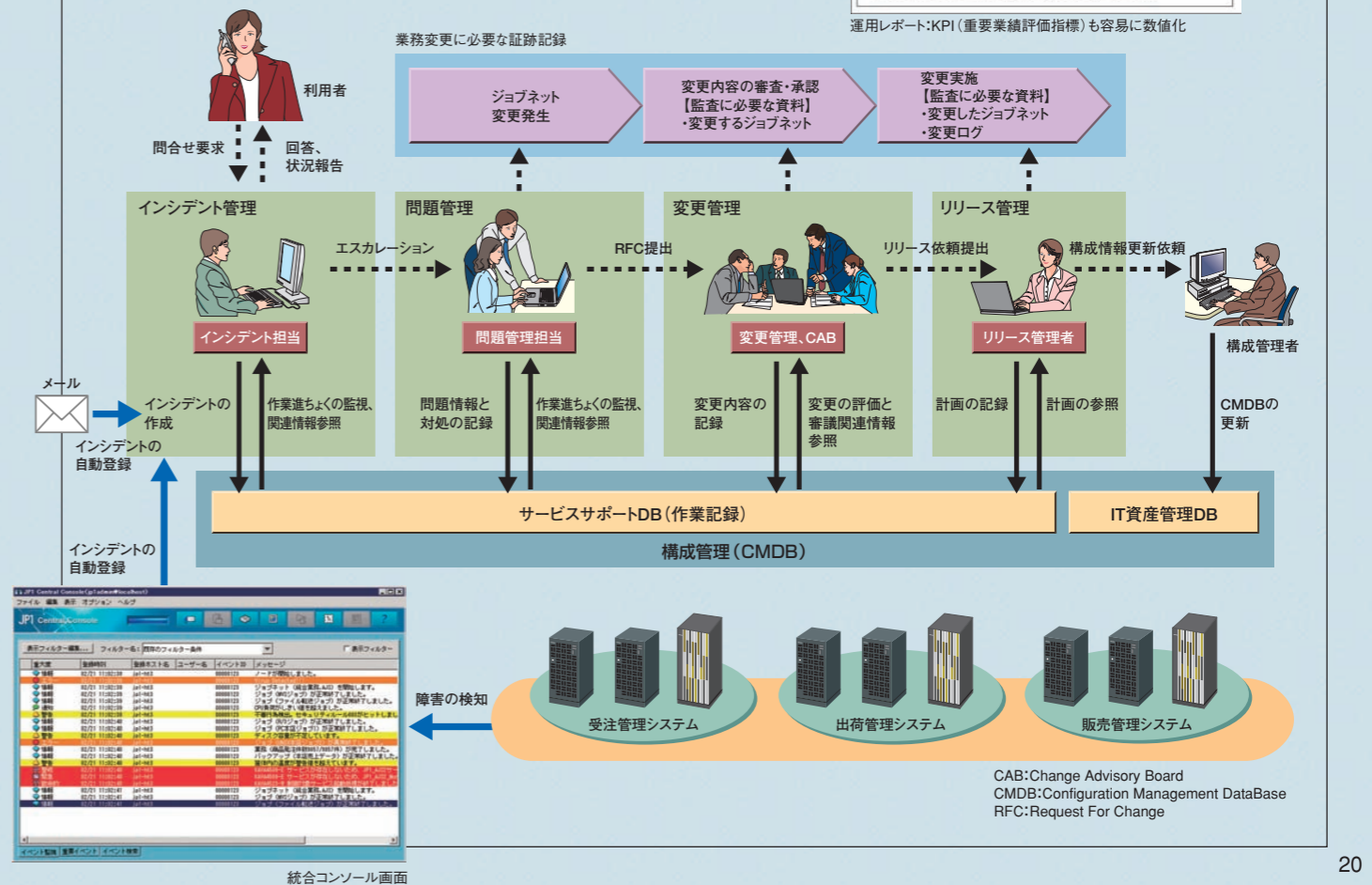
ITIL®サービスサポートの各プロセス（インシデント管理、問題管理、変更管理、リリース管理）を効率良く管理できます。類似案件に対する回答が統一されるとともに、時間も短縮できます。また、インシデントの内容を分析することで、業務運用の弊害となる要因を改善でき、システムの安定運用を実現します。さらに、各プロセスで業務変更の証跡記録も管理できるので、内部統制の強化にも貢献できます。

#### ITIL®サービスデリバリへのJP1適用

ITIL®には、日々のITサービスをサポートするサービスサポートの他に、ITサービスの中長期的な計画と改善を命題とするサービスデリバリがあります。JP1はこのサービスデリバリにも適用できます。例えば、アベイラビリティ管理を利用することで、ITサービスの稼働統計情報（キャパシティ・可用性情報）を分析し、ボトルネックの特定、稼働状況の予測ができます。また、解析結果をレポートとして出力します。ITサービスに関わるSLA（サービスレベル・アグリーメント）の目標値設定、キャパシティプランニングや問題解決を強力に支援します。その他、サービスデリバリの他プロセスにもJP1を適用できます。

### 運用例

利用者からの問い合わせやシステム障害をインシデントとして登録。必要に応じて、問題管理、変更管理、リリース管理にエスカレーションすることで、問題となった案件を一元的に管理します。また管理者は、システム全体の案件の処理状況を確認し、問題があるプロセスやプロセス内の問題箇所を特定できます。



統合コンソール画面

CAB: Change Advisory Board  
 CMDB: Configuration Management DataBase  
 RFC: Request For Change



## ソリューション例 5 内部統制の強化による健全なITシステムの実現

### 現状の課題

- ITシステムにおける内部統制が有効に機能しているのかを把握できない。
- 内部統制の監査時に必要な情報がどこにあるのか見つけ出すのが大変。
- 業務システムにはオペレーションミスや不正操作などのさまざまなリスクが潜んでいるため、監査対応にかかる工数も膨大。

### 導入効果

- 業務が運用ルール通りに行われているかなどを検証することで、**内部統制の有効性を評価**できます。
- 監査時に必要となる**証跡記録を自動収集し一括管理**しており、必要な情報を容易に参照できます。
- 業務やシステム運用を自動化することでリスクを軽減し、信頼性の高いシステム運用を実現。**監査にかかる工数も削減**できます。

### ソリューションを支える主な製品

#### ■ITコンプライアンス

##### 監査証跡管理

業務システムに関連する操作履歴やシステム変更などの証跡記録を自動収集し、証跡記録の長期保管と自動バックアップを実現。発生期間などを元にして、証跡記録の参照も容易。

#### ■オートメーション

##### ジョブスケジューラ

日々実行される業務の自動化により、人手によるリスクを軽減。重要データのバックアップを自動化することで、機密性の高いデータ保存を実現。

#### JP1による内部統制強化の支援

想定されるリスク	JP1による解決策
データ入力漏れ / 転送ミス	業務の自動化 (オートメーション)
業務システムの異常動作	システムの稼働状況の管理 (モニタリング)
不用意なシステム変更による業務への影響	運用プロセスの統制 (モニタリング)
	IT資産の管理 (ITコンプライアンス)
データ改ざん/情報漏えい	クライアントPCの統制 (ITコンプライアンス)

運用実績の記録と監査 (ITコンプライアンス)

### ソリューション解説

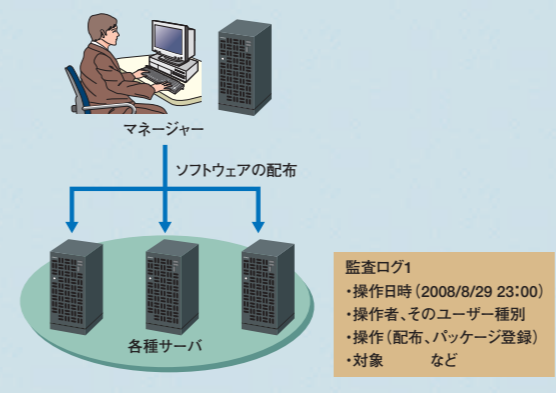
ファイル転送やバックアップなどの一連の業務を自動化することで、人手によるミスを軽減します。また、ソフトウェアの一括配布と自動インストールで、資産管理の効率性と網羅性を実現。また、これらの業務運用や資産変更に伴うログを管理することで、ビジネスの透明性を証明できます。

### 運用例

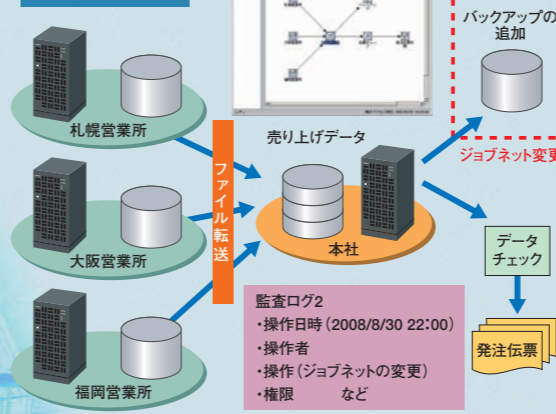
日々の業務運用や変更に伴うログ(証跡記録)を一元管理。

証跡記録を検証することで、内部統制の強化につながることも、監査にかかる工数も削減できます。

#### システムの変更



#### 業務の変更



#### 証跡管理

##### 監査ログ検索画面

